

民医連の職員であること、全国に仲間がいることを誇りに思いました

北海道・東北ブロック
被災者支援活動in石巻

共済の行事として、炊き出し、健康相談会を実施

10月15日～16日、北海道・東北ブロック被災者支援活動in石巻（実行委員長 吉田新宮城共済会連絡会会長）が、石巻の仮設住宅で開催されました。本来ならばブロックの行事として福島で、テニス、卓球、バドミントンを開催する予定でしたが、原発事故の影響で開催が出来なくなり、代替行事として、宮城で炊き出しと健康相談会を行う事になったものです。

宮城民医連共済会からは吉田新先生や矢崎とも子先生の医師2人、看護師、調理師、事務など合計15人がボランティア参加しました。全体では北海道12人、青森11人、秋田9人、岩手8人、山形5人、福島15人の合計75人。その中には医師2人（宮城）、看護師17人が含まれています。

15日は石巻の大森（300世帯）、渡波第一（95世帯）、渡波第二（192世帯）、万石浦（101世帯）の4ヶ所の仮設住宅で、訪問活動を行いました。どのお宅でも訪問した私たちに被災した時のこと、健康状態について、仮設住宅での不安なことなどいろいろ話してくれました。青森から持参した新鮮なりんごはほとんどの仮設住宅からも貰いに来る人がいました。その日の夜は松島の大観荘で、交流会を開催しました。吉田会長が宮城の被災状況や宮城に対する全国からの支援に対してお礼を述べ、矢崎先生は坂総合病院などでの医療活動についてパワーポイントで分かりやすく報告しました。各県代表からは支援活動の取組みについて、仮設住宅を廻っての感想、福島からは原発事故で県民が本当に困っている状況（原発はいらない！）が報告されました。



健康相談会会場で矢崎先生と栗林さん



炊き出しのカレーライスには行列が(石巻・大森地区)

16日は大森、渡波第一（渡波第二含む）、万石浦の3ヶ所の仮設住宅で、炊き出しと集会所での健康相談会、訪問活動が行われました。炊き出しはセントラルキッチン宮城で調理したカレーライス。とても美味しいと大好評で、700食用意した食事はすべて無くなりました。健康相談会にも約30名の住民が訪れ、血圧が170以上の人がいったり、生活面での不安を訴えるなど、診察した医師は大忙しでした。また、集会所の前では子どもたち向けの縁日も開催しました。北海道から持参したおもちゃや事務局で準備した魚釣りゲームなどで子どもたちとの交流も深める事が出来ました。

今回の活動に参加した青森の舘田総子さんは、「このような活動は多くの職員に経験してほしいし、継続的な活動にしてほしい。東北のみんなが元気になるまで民医連は頑張らなければならない。この活動を通して自分で見たこと聞いたことの貴重な経験は多くの人に伝えようと思う。私は民医連の職員であること、全国に仲間がいることを誇りに思いました。」と感想を寄せてくれました。

訪問することが被災者の力に

訪問をして“こうして声をかけてくれるだけでありがたい”と涙を流して下さる方や、誰にも不安を打ち明けられず、我慢していた思いを話すことで涙が流れてしまう方もおり、こうして訪問することが少しでも被災者の方々の力になれているのだと感じました。また、身寄りがなく心細く感じている方々が炊き出し等沢山の場所へ出向くことで、少しでも輪を広げていける手助けになれば良いと思います。

栗林 麻季さん（看護師・宮城 坂総合病院）

